

「桜の樹」 ニュースレター vol 4

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2021.9



富士山とわに塚の一本桜 山梨のカピバラさん撮影

巣鴨カフェ「桜」は、この夏2周年を迎えました。7月10日(土)コロナ禍制限を設けながらではありましたが、樋野興夫先生にもお越しいただき笑いあり涙あり・皆様と貴重な時を過ごさせていただきました。

『真の国際人』～「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物～

樋野興夫

内村鑑三 (1861-1930)の『代表的日本人』(1894年)、新渡戸稲造 (1862-1933)の『武士道』(1900年)、岡倉天心 (1863-1913)の『茶の本』(1906年)はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。英語で、日本(人)を深く、広く、丁寧に 海外に紹介出来た人物は、この3人ではなかろうか! この3人は、「英語力と教養」を備えた 明治以降の日本が誇れる人物である。明治時代の3人の「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三・新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう!



樋野先生が講演でお話して下さった、岡倉天心のエピソード

ボストン美術館から招聘を受け渡米した際、街中で若いアメリカ人が「お前たちは何ニーズだ? チャイニーズ? ジャパニーズ? ジャワニーズ?」とアジア人に対する非礼な声掛けをしてきた。それに対して岡倉天心は、流暢な英語で「我々は日本の紳士だ。お前たちこそ何キーク? ヤンキー? ドンキー? モンキーか?」と切り返した。一緒にいた横山大観は、すがすがしい思いになった。・「誰かが何かを言った時、どう答えるのか、そこに一緒にいた人間がすがすがしい思いになれるような話ができる人間になれ」と笑顔で樋野先生は、お話し下さいました。

いつも巣鴨カフェに富士山の写真を提供して下さっているカピバラさん、2周年を前にして、現在のわに塚の一本桜を撮影してきて下さいました。カピバラさんの富士山のお写真は、巣鴨恒例の「言葉の処方箋みくじ」として使用させていただきます。



かえるの切り絵は、巣鴨のスタッフが輪になって頑張っている様子をイメージしてA.S.さんが作って下さいました



A.S.さんからのお手紙とかえると桜の切り紙をいただきました

兄が肺がんで旅立って5年後に私も同じがんになりました。先生の御本をきっかけにがん哲学外来を知り、手術前にかけて頂く様に伺ったお茶の水カフェに手術後通ううちにHさんと出会う事が出来、Hさんのお蔭で山本さんと出会いました。山本さんはお若い頃に、肺がんで肺を半分も切除なさり、その後乳がんも発症されましたが、20年以上も経過なさっている事を自然体で穏やかに、にこにことお話されたのでびっくりしました。私は初期で手術が出来て幸運だった事は頭では解っていたのですが兄以外にも身近な肺がんになられた方々は皆亡くなられていて、自分もそんなに長くは生きないのかな・・・と漠然と思っていたのです。

母を看取った後、疲れていて、自分を立てなおさないとと思っていた時期でもありました。スタッフの方達と巣鴨カフェを立ち上げられた山本さんに自分もまだこれからもずっとやって行けるんだという可能性や希望を頂いた思いでした。コロナ禍で、伺えなくなってからはニュースレターや処方箋のカード、手作りのポップリを送って下さり、たくさんの笑い文字が山本さんやスタッフの皆様の笑顔と重なり、内向きになった気持ちを外に向ける事が出来ました。手術から5年が経ちました。

7月で2周年の巣鴨カフェ。山本さん、Hさん、スタッフの皆様、おめでとうございます。

ありがとうございます。コロナが落ち着き、またカフェでお会い出来る日を楽しみにしています。



コロナ禍での2度目の夏 まぐ

皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。緊急事態宣言とは思えない人混みをテレビで観るたびに、「まるで違う世界のこのよう」と感じる私は相変わらずステイホームで過ごしています。

リアルのがん哲学カフェに参加できなくなって、はや1年半以上。皆さんにお会いしたいなあと思いつつも、がん哲学カフェには、専ら ZOOM でのみ参加しています。カフェで知り合った方々に会うことができないのは、とても淋しい気持ちです。ですが、ZOOM のがん哲学カフェで東北や関西、そしてアメリカから参加されている方々とお話をする機会を得ることができました。コロナがなければ、ZOOM を利用してのカフェはなかったでしょうし、こうした方々とお知り合いになることも



なかったのではないかと考えています。「数少ないコロナのおかげ」と思える事です。今は ZOOM で知り合った方々と、ひょっとしたらリアルでお会いできる日がくるかもしれないと楽しみにしています。

そして一日でも早く、コロナが収束したと言える日がきますように願っています。

巣鴨のスタッフでもあるまぐさんは、ステイホームでできた時間に、いつも巣鴨のかえるたちのお洋服を作ってくださいています。写真は2周年用の衣装。

フラワーアレンジメントは九州にいる巣鴨のスタッフさんが毎月贈って下さいます。



ボードに込めた想い 菊池紫穂子

お久しぶりです。ちょっと前にお邪魔させていただきました。

山本さんと同期で大学病院で働いておりました。

私、勝手にカフェはもっと涙や鬱々とした心境の方が多いのかなと思っておりましたが、、、全く違う感覚でした。

まず、ボードに込めた思いですが、まさにその時の感覚です。

桜や蛙がイメージかな?と思ったのですが、ちょっと違うとすぐ却下でした。

海外に行くと必ず思うことが、私はなんてちっぽけな場所で、ちっぽけな感情で生きているんだろう。広い世界で感じる素晴らしい感性に触れたら大きな心になるということです。

カフェに何って正しくそう思えたんです。皆さん色々な体験を通して今があると思っています。私は悲しみを超えてないせいか分かりませんが、カフェに何った帰り道は日本に戻る飛行機のような感じでした。自分が少し大きな気持ちで周囲を見ているような気持ちでした。

また、山本さんとはとは時に会うことができますが、殆どLINEです。会った時もLINEでもそうですが、色々な意味で私の自慢です。これからも、頑張りすぎる程頑張り屋さんの彼女を宜しくお願いします。皆様とお会いして、カフェに関わることが彼女をより前向きに、素敵な女性にさせていると感じております。

私もまたお邪魔させて下さい。

それでは。次回お会いできる時も皆さん笑顔で。。



カフェで感じた「大きな心」をイメージしたウエルカムボードを作り、2周年に贈って下さいました。

編集後記 さくら(かえる) 2年間たくさんの出会いと学びの時を頂いてきました。関わって下さったすべての皆様に感謝申し上げます。参加されている方、参加はしていないけれども、そっと見守って下さっている方、おひとりおひとりがそれぞれの個性で巣鴨のカフェに愛を注いで下さっています。ニューズレターvol 4 ではその一部を紹介させていただきました。先日ある方が、「カフェ終了後、何かお土産を貰って帰る気持ちになります。それは体の真ん中奥の方に入り込み、染み込んで、しゅわーっと全身に広がる、元気のラムネ玉のようなものです」というメールを下さいました。メールを頂いて涙がでました。コロナ禍対面でのカフェ開催は、毎回悩みます。しかし、病気は待つてはくれない。間違いなく今だからこそ対面でのカフェを必要として下さっている方もおられます。私自身もその一人です。深刻なコロナ禍、お休みをしなくてはならないときがあるかもしれません。そうした時でも「しゅわーっと広がるラムネ玉」を私自身を含めそれぞれの皆様が、持ち続けていられるよう、持てる力を尽くしていけたらと思います。3年目もどうぞよろしくお願ひいたします。

